

“Who drives an officer’s career, the individual or his institution? The case of French officers”

「誰が士官のキャリアを決めるのか。個人又は制度か？ フランス士官の事例」

Gabriel Morin, Véronique Chanut

Abstract

管理主義化という現象は、個人の台頭をもたらすことにつながり、国家及びエリートもその影響を感じている。軍隊は、その現象の後に続く組織の変質を免れない。本研究は、フランスの士官のキャリアパスを分析することにより、管理主義化の効果を調査する。リサーチ・クエスチョンは、フランス士官のキャリアは個人又は制度のどちらが決めるのかを判別するためのものである。この実証研究は、フランスの軍隊のエリート層の形成において重要な役割を担っている行為者から収集した詳細な一次データに基づいている。こうした行為者には、将官、場合によっては、士官学校の校長（校長は、士官学校の学生、教官及び士官学校における指導者のキャリアパスの設計者を務めてきたからである。）が含まれる。調査の結果、先例のない軍隊の制度内部の文民化の過程にもかかわらず、軍隊のリーダーのキャリアは不変であることが明らかになりつつある。それゆえ、フランスの士官のキャリアパスは、軍隊の制度の同一性を示すものとして理解できるのである。

Points for practitioners

組織としての軍隊は社会の主要な発展の鏡のように思われる。特に、管理主義化という現象、そのコララーとしての個人主義は、国家もその影響を受けているところである。フランスの士官のキャリアを分析することにより、この管理主義化の効果を調査できる。研究の結論は、この現象の効果を緩和するもの（軍隊の場合には文民化と呼ばれる）を明らかにし、反対に、軍隊の制度の同一性の柱であるリーダーのキャリアに関する特徴の不変性を明らかにした。